

農業

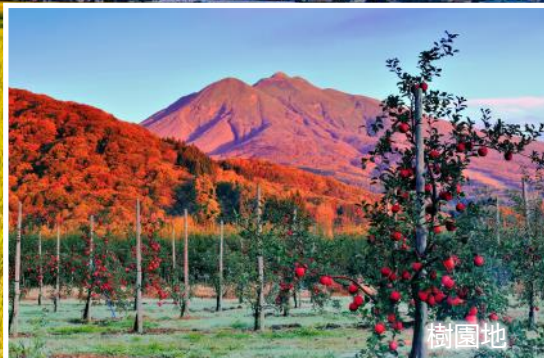
地域の特性を生かした農業が営まれています。

津軽地方では、米やりんご、県南地方では、野菜や畜産物が多く生産されています。

耕地面積は14万7,300haで、田が53%、普通畑が24%、樹園地が15%、牧草地が9%となっています。



田



樹園地



畑



ライムギと飼料用とうもろこしの
二毛作(ライムギ)

青森県の耕地利用割合(令和6年)



出典: 耕地及び作付面積統計
※四捨五入のため、各要素の合計は100%とならない

耕地面積の大きい都道府県(令和6年)

順位	都道府県名	耕地面積(ha)
1	北海道	1,138,000
2	新潟	166,500
3	茨城	158,300
4	青森	147,300
5	岩手	146,000

出典: 耕地及び作付面積統計

農業の全国ランキング

1	りんごの生産量	第1位	令和6年
2	にんにくの生産量	第1位	令和6年
3	ごぼうの生産量	第1位	令和6年
4	採卵鶏の飼養羽数(1戸当たり)	第1位	令和6年
5	豚の飼養頭数(1戸当たり)	第2位	令和6年
6	ながいもの生産量	第2位	令和6年
7	西洋なしの生産量	第2位	令和6年
8	だいこんの生産量	第3位	令和6年
9	かぶの生産量	第3位	令和6年
10	食料自給率(生産額ベース)	第3位	令和5年
11	にんじんの生産量	第4位	令和6年
12	ブロイラーの飼養羽数(1戸当たり)	第4位	令和6年
13	耕地面積	第4位	令和6年
14	牧草の作付面積	第4位	令和6年
15	食料自給率(カロリーベース)	第4位	令和5年
16	たばこ耕作面積	第5位	令和6年
17	メロンの生産量	第7位	令和6年
18	ばれいしょの生産量	第8位	令和6年
19	ピーマンの生産量	第8位	令和6年

青森はおいしいお米の産地である

令和7年産の米の収穫量は全国10位(全国シェア3.6%)、10a当たり収量は全国2位(619kg)となっています。

「青天の霹靂」は平成27年のデビュー以来、全国各地で積極的なPR活動を展開してきたほか、8年連続で特A評価を取得したことなどにより、あおもり米全体の評価が高まっています。

令和5年産からは「はれわたり」が新たに加わり、「青天の霹靂」「まっしぐら」とともに、それぞれの特徴を生かした新たな需要獲得を目指しています。



適度な弾力があり粘り気が少なく、あっさりとした味わいが特徴で、県外を中心に多様な需要に応えることができるあおもり米の大黒柱です。



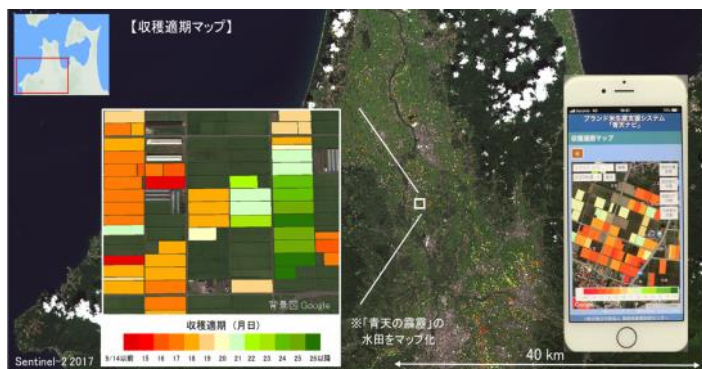
粘りとキレのバランスが良く、上品な甘みに残るさっぱりとした味わいが特徴です。おいしさを重視した作り方や出荷基準を設け、津軽地域の条件の良い地域で生産しています。



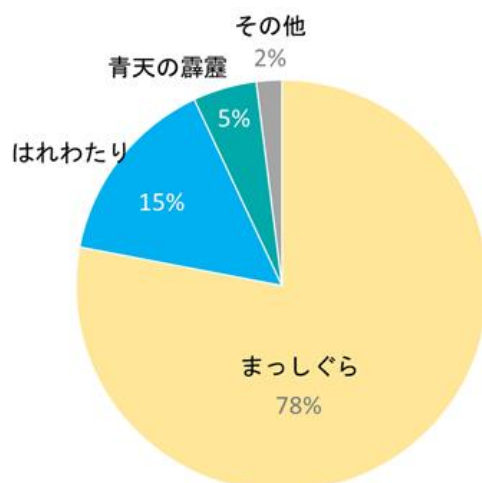
炊き上がりに白く光を放つ美しい外観と、しっかりとした粒立ちが特徴で、高温などが原因で米に割れが生じる胴割やいもち病に強い特性を持っています。

「青天の霹靂」の良食味・高品質生産のため、衛星画像からほ場ごとの水田の生育状況をデータ化するシステム「青天ナビ」を活用し、生産指導に活用しています。

令和6年度からは、このシステムを応用し、「まっしぐら」と「はれわたり」の収穫適期マップの試験運用を開始しました。



品種の作付面積割合(令和7年産)



出典:県農林水産部



「はれわたり」が特A評価を4年連続で取得

一般的に1つのお米の品種を開発するまでには、最短でも10年の歳月を要するとされています。青森県の新品種「はれわたり」は、平成21年に育成をスタートし、13年の歳月をかけて県産業技術センターが開発しました。

令和5年11月3日に全国デビューし、4年連続で特A評価を取得しました。

生産者のこだわりと豊かな自然が育んだ

自慢の野菜が勢ぞろい

青森県は、肥沃な土壌と夏季の涼しい気候を生かし、多くの野菜が生産されています。

野菜全体の産出額は東北1位で、出荷量全国ベスト10に12品目が入っています。

主力の「ながいも」「ごぼう」「にんにく」は貯蔵施設の活用等により、ほぼ周年で出荷されているほか、「トマト」「ミニトマト」は東京都中央卸売市場における8月入荷量でシェア4位、2位となっています。



にんにく

国内出荷量の約7割を占めています。青森県のにんにくは、大玉で一片が大きく、実が引き締まっていることが特徴です。品質の良いにんにくを通年で供給しています。



ごぼう

日本一の出荷量を誇り、国内出荷量の約4割を占めています。青森県のごぼうは、香りと風味がよく、シャキシャキとした食感が特徴です。



ながいも

国内出荷量の約4割を占めています。青森県のながいもは、色白で粘りが強く、柔らかい肉質とアクが少ないことが特徴です。



だいこん

国内出荷量は全国第3位です。全国的には秋冬中心ですが、青森県では、冷涼な気候を利用して夏場から安定的に出荷しています。



こかぶ

国内出荷量は全国第3位です。青森県の主力はこかぶで、品質管理を徹底し、鮮度がよいと好評を得ています。生で食べると、瑞々しさとほのかな甘みがあることが特徴です。



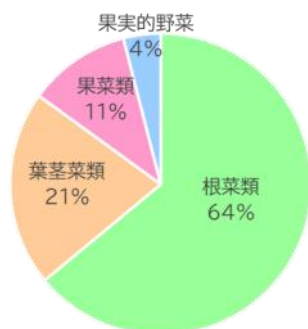
にんじん

国内出荷量は全国第4位です。青森県のにんじんは、夏から秋にかけての出荷が中心で柔らかくて甘味があることが特徴です。

野菜の出荷量全国ランキング(令和6年)

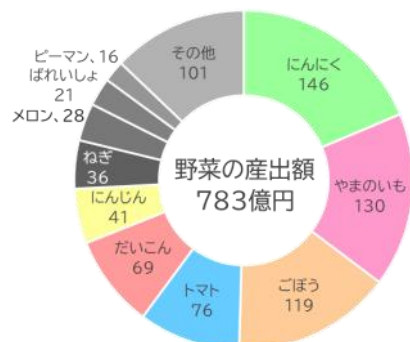
品目	順位	全国シェア
1 にんにく	第1位	67%
2 ごぼう	第1位	42%
3 ながいも	第2位	35%
4 だいこん	第3位	11%
5 かぶ	第3位	6%

県産野菜の類別作付面積(令和6年)



出典：農林水産省統計

県産野菜の産出額内訳(令和6年)



出典：農林水産省統計 ※産出額には「いも類」を含む。

主な野菜の旬カレンダー

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ながいも												
にんにく												
だいこん												
にんじん												
ごぼう												
こかぶ												
ばれいしょ												
ねぎ												
キャベツ												
メロン												
かぼちゃ												
トマト												

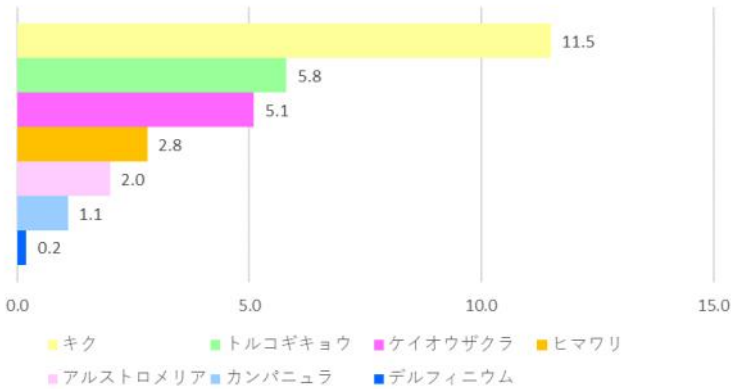


夏の涼しい気候で育った青森県の花きは、色鮮やかで、日持ちが良いと評価を得ています。
青森県では、「切り花類」の生産が中心で、主にキク、トルコギキョウなどが生産されています。

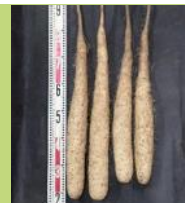


県産花きの魅力を広く紹介し、消費の拡大を図るため、あおもりフラワーフェスティバルを開催しています。
フェスティバルでは、県産花きに親しんでもらえるよう、県産花きを中心としたフラワーアレンジメントの展示やフラワーアレンジメント教室などを行っています。

花きの県推進品目の作付面積(令和6年) (ha)



出典: 県農産園芸課



◇野菜トピックス【ながいも新品種「夢雪」について】

令和6年3月に品種登録出願したながいも新品種「夢雪」は、従来の品種よりいもの長さが短く、平いものが少ない品種です。近年、夏場の高温により、いもの形状が長くボリューム不足になるため、コンパクトな形状により、収穫時の折れ・破損等の軽減や掘り取り労力の軽減が期待されます。



◇花きトピックス【フラワーウィークについて】

県産花きの消費拡大を図るため、県内の花販売店等と連携し、県産花きを主体としたフラワーアレンジメントの販売促進キャンペーン「あおもりフラワーウィーク」を6月から9月にかけて実施し、花のある暮らしを提案しながら、県産花きの魅力を伝えています。

世界に誇る青森りんご

青森りんごの生産量は約37万トンで、全国りんご生産量の約6割を占め、約21万トンが県外に出荷されています。

県内には、およそ680棟の貯蔵施設が整備され、冷却貯蔵に加えて、酸素と炭酸ガス濃度を調整してりんごの呼吸を抑制する「CA貯蔵」により、ほぼ周年で出荷が可能となっています。



光センサー選果機によるりんごの選果



普通栽培



高密度栽培

従来の栽培方法に加え、樹形がコンパクトで早期から多くの収穫量が見込める高密度栽培の取組も増えています。

りんごの生産量

令和6年産の青森りんごの生産量は370,500トンで、全国生産量の約6割を占めています。

りんごの主な品種

早生種



つがる

中生種



紅玉

晩生種



王林



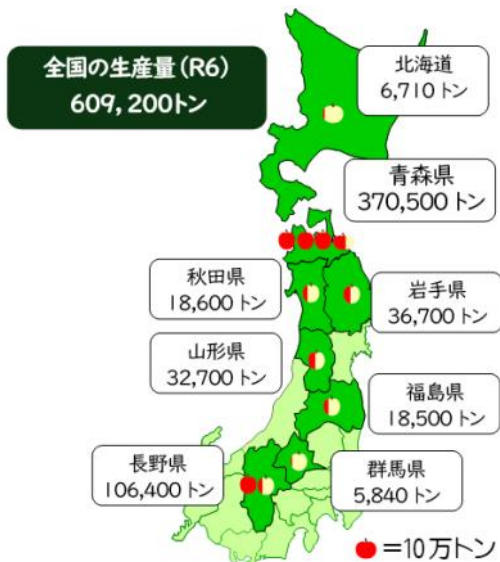
トキ



ジョナゴールド

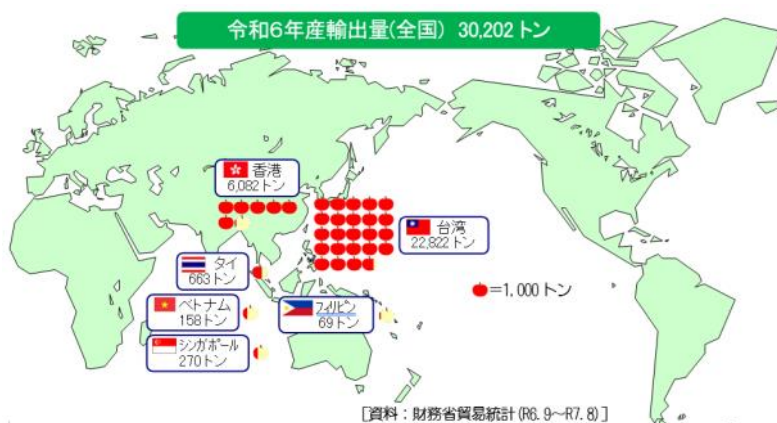


ふじ



青森りんごの輸出先

令和6年産の日本からのりんご輸出量は約3万トンで、そのうち約76%が台湾に輸出されています。



地域で味わう季節の魅力、

青森フルーツ

青森県には、りんごの他にも全国第1位の収穫量を誇るカシスやあんず、生産量第2位の西洋なしなど、多様な特産果樹が生産されています。

特に食味が良く大玉なさくらんぼ「ジュノハート」、熟すと黄金色で独特な芳香を有する西洋なし「ゼネラル・レクラーク」、年明けまで販売可能なぶどう「スチューベン」は高い評価を得ています。



さくらんぼ(ジュノハート)

県産業技術センターが開発し、平成25年に品種登録された県オリジナル品種の「ジュノハート」は、500円玉より大きく国産では最大級の品種です。

糖度は約20度で、甘みが強く酸味が少ないことが特徴です。果肉がしっかりしていて適度な果汁があり、優れた食味と美しい外観から贈答品として最適なさくらんぼです。



西洋なし(ゼネラル・レクラーク)

青森県の南部町がいち早く産地化に取り組んだフランス原産の西洋なし「ゼネラル・レクラーク」は、独特な芳香を有し、ジュシーでなめらかな舌触りが特徴です。



ぶどう(スチューベン)

ぶどうは、特産果樹で最も栽培面積と生産量が多くなっています。

県産で最も生産量の多いスチューベンは、ニューヨーク生まれの品種で、鶴田町などで栽培されており、本県の栽培面積は全国の約7割を占めています。酸味が少なく濃厚な甘みが特徴です。

特産果樹の生産量全国ランキング

1 カシス	第1位	令和4年
2 あんず	第1位	令和4年
3 西洋なし	第2位	令和6年
4 さくらんぼ	第4位	令和2年
5 もも	第7位	令和6年
6 ぶどう	第8位	令和6年

主な果樹の旬カレンダー

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
りんご(ふじ)												
りんご(王林)												
りんご(紅玉)												
なし(和)												
なし(洋)												
ぶどう(キャンベル)												
ぶどう(スチューベン)												
うめ・あんず												
さくらんぼ												
もも												
ブルーベリー												

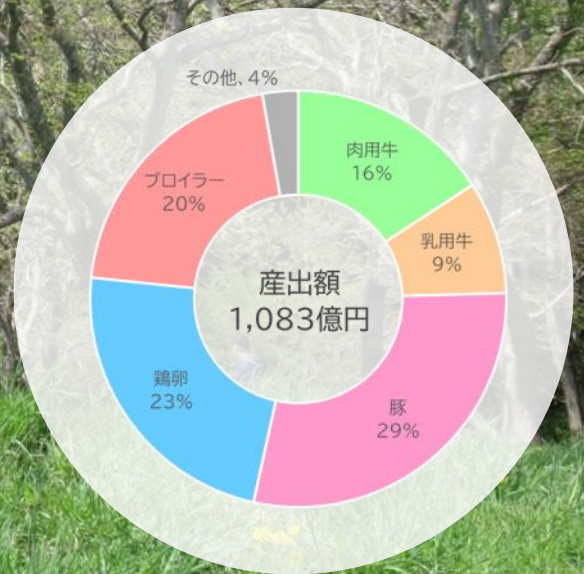
豊かな自然にはぐくまれた

畜産物

夏季冷涼な気候と、全国有数の飼料穀物コンビナートが立地している優位性を生かし、県内各地で畜産業が盛んです。

畜産の産出額は1,083億円で、本県農業産出額の上位10品目のうち、豚、鶏卵、ブロイラー、肉用牛及び生乳の5品目が占めています。

本県の畜産は、採卵鶏の1戸当たりの飼養羽数が全国第1位、豚の1戸当たりの飼養頭数が全国第2位となっているなど、大規模化が進んでいます。



畜産産出額の内訳(令和6年)



豚

3種類の品種をかけあわせた三元豚という豚が多く飼育されており、代表的な組み合わせは、ランドレース種、大ヨークシャー種、デュロック種です。



採卵鶏

卵の生産を目的に飼育される鶏で、代表的な品種として、白色レグホン、ポリスブラウン、ジュリアなどがあります。



ブロイラー(肉用鶏)

肉用に改良された鶏で、短期間(40~50日程度)で出荷され、国内で最も多く流通している肉用の鶏です。

あおり牛(肉用牛)

県内で生産されている黒毛和種や日本短角種、乳用種及び交雑種などの牛の総称で、青森県の冷涼な気候と広大な自然環境のもと、公共牧場などの豊富な草資源を生かして育てられています。



あおり和牛(黒毛和種)

あおり牛のうち、黒毛和種を「あおり和牛」と称しています。

適度な甘みと口の中であまりける脂身の旨味が特徴です。

あおり短角和牛(日本短角種)

あおり牛のうち、日本短角種を「あおり短角和牛」と称しています。



全国和牛能力共進会(全共)

全共は「和牛のオリンピック」と呼ばれ、和牛の日本一を決めるため、5年に一度、開催される「和牛の祭典」です。次回は令和9年に北海道で開催され、全国の優秀な和牛を一堂に集めて、その能力を競います。



審査は雄牛、雌牛の姿・形を審査する「種牛の部」と肉質等を審査する「肉牛の部」、また、和牛を飼養する高校・農業大学校からの出品を対象とした特別区を設け、若い担い手の育成を目指しています。

令和4年度に開催された鹿児島県全共では、「肉牛の部」において、本県の出品牛が、特別賞(脂肪の質と形状賞)を獲得しました。



としゅうふく 本県期待のエース種雄牛「寿優福」

「寿優福」は、父が「優福栄」、2代祖が「第1花国」と本県の名牛を2代重ねて交配して造成された本県15番目の基幹種雄牛です。

令和7年度あおり和牛共励会をはじめ、県内外の共進会で優秀な成績を残しており、令和9年度開催の北海道全共でも大きな期待が寄せられています。